

東京医科大学麻醉科専門研修プログラム 2024 年度



1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻醉科専門医制度の理念

麻醉科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻醉科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻醉科専門医の使命

麻醉科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能ないように管理する生体管理医学である。麻醉科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻醉管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

麻酔専門研修の概要

本プログラムは安全で質の高い周術期医療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与するための、麻酔科関連領域の研鑽を積むことを目的とした専門研修プログラムである。将来日本の麻酔科医療を担う人材となり、如何なる事態にも対応のできる自信と麻酔科医療に対する誇りを有する麻酔科医となるべく、専門研修を通じて麻酔科学の基本である麻酔管理学、集中治療医学、ペインクリニック学、緩和医療学の基礎を学び、将来、世界に通用する麻酔科医となり医療貢献するための研修である。

本研修を通じて、麻酔科医にとって不可欠な知識・技術を身につけるだけでなく、医師・看護師・学生への教育指導能力の獲得とチーム医療に携わる者に必要な豊かな人間性やリーダーシップの涵養に努め、プロフェッショナルな麻酔科医になるための研修プログラムを用意している。本研修プログラム終了後に麻酔科専門医を取得し、その後、麻酔科学会指導医、ペインクリニック学会専門医、集中治療医学会専門医、博士号取得を目指す。

麻酔専門研修の目的

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能を修得すること。
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力を備えること。
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣を学ぶ。人への思いやりと医療に対する愛情を有すること。
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心を持つ。弛まぬ努力により知識と技術の向上に努めること「学則不固」をモットーに！リサーチマインドを有すること。
- 5) チーム医療を担うための人格とリーダーシップを有すること。

以上の資質を修得した医師となることを目的とする。

プログラムの特徴

本プログラムにおける麻酔科専門研修では、あらゆる症例に対応できる手術麻酔の研修を受けることが出来る。特殊症例(小児麻酔、心臓血管麻酔、胸部外科麻酔、産科麻酔、脳神経外科麻酔)は、基幹病院である東京医科大学病院のみならず、多様で特色のある専門研修連携施設(計20施設)で更に学ぶ事が出来る。

麻酔関連領域である集中治療研修は、過大侵襲を受けた術後患者や敗血症、ARDSなど重症患者の病態を把握し、エビデンスに基づいた呼吸・循環管理、感染症管理、代謝栄養管理などの全身管理、集中治療の基礎と最先端を学ぶ事が出来る。ICUスタッフと主治医、感染制御部医師、看護師、薬剤師、臨床工学技士と合同でカンファランスを開き、治療方針の決定を行う。多職種で呼吸管理や感染症、代謝異常の患者の全身状態を把握する。多職種連携の総合医療である集中治療領域でリーダーシップを学ぶ。

麻酔関連領域であるペインクリニック研修では、とくに診断学を重視する。診察・検査・診断・治療のロードマップをしっかりと引けるような研修を行う。超音波ガイド下神経ブロックやレントゲン透視神経ブロックなどの手技や薬物療法、理学療法、東洋医学、臨床心理学など幅広い診療を学ぶ事が出来る。また、整形外科、リハビリテーション科、神経内科、看護師、臨床心理士と合同カンファランスを行うことで、**多職種連携の医療とチームワークを学ぶ事**が出来る。

麻酔関連領域である緩和医療研修では、増加するがん患者のQOLを向上させるための医療を学ぶ事が出来る。がんと診断されがんの治療をしている患者と家族の苦痛をトータルペインとして捉え、患者主体のアセスメントを行い、適切な**緩和ケア**を行うことを学ぶ事が出来る。

到達目標

本研修プログラムでは、専攻医が**整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標**を達成できる専攻医教育を提供し、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する。

麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている。

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修の前半2年間のうち少なくとも1年間、後半2年間のうち6ヶ月は、基本的に専門研修基幹施設である東京医科大学病院において研修を行う。
- 6ヶ月は、基本的に専門研修連携施設Aである東京医科大学八王子医療センター・東京医科大学茨城医療センターで研修を行うこととする。
- 研修内容・進行状況に配慮して、プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように、ローテーションを構築する。
- 本プログラムにおける麻酔研修期間中の年間の麻酔経験件数は約200例以上を経験する。
- 特殊麻酔研修では、研修内容の充実を図るため、基幹病院以外の専門研修連携施設で更なる研修を行う。
- **小児麻酔研修**では、基幹病院あるいは、小児領域に特徴のある研修連携施設である、国立成育医療研究センター、埼玉県立小児医療センター、自治医科大学附属病院のいずれかにおいて研修を行う。
- **心臓血管麻酔**では、基幹病院あるいは、心臓血管領域に特徴のある研修連携施設である、国立循環器病研究センター、自治医科大学附属病院、三井記念病院、東京医科大学八王子医療センター、千葉大学医学部附属病院、山形大学医学部附属病院、松波総合病院、立川総合病院のいずれかにおいて研修を行う。
- **産科麻酔**では、基幹病院あるいは、産科麻酔領域に特徴のある研修連携施設であ

る、国立成育医療研究センター、自治医科大学附属病院、順天堂大学医学部附属順天堂医院のいずれかにおいて研修をおこなう。

- 専門研修基幹施設で研修プログラムをもつ、自治医科大学附属病院、自治医科大学附属さいたま医療センター、順天堂大学医学部附属順天堂医院、千葉大学医学部附属病院、東京女子医科大学病院、三井記念病院、山形大学医学部附属病院、熊本大学医学部附属病院、戸田中央総合病院、立川総合病院と連携し共に補い合うことで、**専攻医のニーズに合わせた幅広い麻酔科専門研修を行うことが出来る。**
- すべての領域を網羅するローテーションAを基本とするが、小児麻酔を中心に学びたい者へのローテーション(ローテーション例B)、ペインクリニックを学びたい者へのローテーション(ローテーション例C)、集中治療を中心に学びたい者へのローテーション(ローテーション例D)など、専攻医のキャリアプランに合わせたローテーションも考慮する。
- 地域医療の維持のため、最低でも3ヶ月以上は**地域医療支援病院**である、岐阜県の松波総合病院、あるいは埼玉県の埼玉県立小児医療センターで研修を行う。また、プログラム内では基幹施設のある東京都以外に、山形県、茨城県、千葉県、埼玉県、栃木県、岐阜県、熊本県、新潟県、大阪府と**幅広い地域に対して医療貢献するプログラム**としている。
- 2024年度から、**東京医科大学八王子医療センター特化プログラム**をローテーションとして取り入れる。このプログラムでは、八王子医療センターを中心に、基幹病院の東京医科大学病院や連携している、東京医科大学茨城医療センター、戸田中央総合病院、東京警察病院などをローテーションするプログラムで、将来的に八王子医療センターでの勤務を目指す専攻医に対応するプログラムとしている。

研修実施計画例

コース	A(標準)	B(小児)	C(ペイン)	D(集中治療)
初年度 前期	本院	本院	本院	本院
初年度 後期	本院	本院	本院	本院
2年度 前期	研修連携施設 A または B	本院または 研修連携施設 A	本院または 研修連携施設 A	本院または 研修連携施設 A
2年度 後期	研修連携施設 A または B	小児麻酔研修	本院(ペイン)	本院(集中治療)
3年度 前期	本院または 心臓麻酔研修	本院または 本院(集中治療)	本院または 心臓麻酔研修	本院または 小児麻酔研修
3年度	本院または	本院または	本院または	本院または

後期	小児麻酔研修	本院(ペイン)	小児麻酔研修	心臓麻酔研修
4年度 前期	本院または 本院(ペイン)	本院または 心臓麻酔研修	本院または 本院(ペイン)	本院または 本院(集中治療)
4年度 後期	本院 本院(集中治療)	本院または 研修連携施設 B	本院または 本院(集中治療)	本院または 本院(ペイン)

週間予定表

本院麻酔ローテーションの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	外勤	手術室	休み	カンファ	休み
午後	手術室	手術室	外勤	手術室	術前評価	休み	休み
当直				当直			

4. 研修施設の指導体制

① 専門研修基幹施設

● 東京医科大学病院

研修プログラム統括責任者: 合谷木 徹

専門研修指導医:

内野 博之(麻酔, ペインクリニック, 集中治療)

大瀬戸 清茂(ペインクリニック, 麻酔)

荻原 幸彦(麻酔, 集中治療, ペインクリニック)

中澤 弘一(麻酔, 集中治療)

濱田 宏(麻酔, 緩和医療, ペインクリニック, 集中治療)

合谷木 徹(麻酔, ペインクリニック)

福井 秀公(ペインクリニック, 麻酔, 集中治療)

柿沼 孝泰(麻酔, 心臓麻酔, 産科麻酔)

板橋 俊雄(麻酔)

渋谷 まり子(麻酔)

沖田 綾乃(麻酔)

齊木 巖(麻酔, 集中治療)

魚島 直美(麻酔)

小野 亜矢(麻酔, 心臓麻酔)

崔 英姫(麻酔)

鈴木 直樹(麻酔, 小児麻酔)

山田 梨香子(麻酔)
岡田 寿郎(麻酔, ペインクリニック)
小林 賢礼(麻酔)
長倉 知輝(麻酔)
河内 文(麻酔)
栗田 健司(麻酔)
松本 りか(麻酔)

認定病院番号 28

特徴:

麻酔, ペインクリニック, 集中治療, 緩和医療の領域を幅広く学ぶ事が出来る.

② 専門研修連携施設 A

● 東京医科大学茨城医療センター

東京医科大学茨城医療センター

研修プログラム統括責任者: 室園美智博

研修指導医:

室園 美智博(麻酔、ペインクリニック)

岩瀬 直人(麻酔)

武藤 瑛佑(麻酔)

認定病院番号: 172

特徴:

茨城県南部における急性期中核病院であり、「がん」、「総合救急」、「高齢者・機能障害者」、「小児・周産期」の4つの分野の充実を図っている。それらに応じた手術を中心に、小児麻酔、整形外科麻酔、呼吸器外科麻酔、脳神経外科麻酔を含めた麻酔研修、重症患者に対する集中治療、地域における救急医療の研修を行う。

● 東京医科大学八王子医療センター

研修プログラム統括責任者: 富野 美紀子

専門研修指導医:

富野 美紀子(麻酔、心臓麻酔)

石田 裕介(麻酔、ペイン、集中治療)

前田 亮二(麻酔、ペイン)

大嶽 宏明(麻酔)

奥山 亮介(麻醉)

認定病院番号 203

特徴:

心臓血管手術を含め多様な症例を経験できる。特に、生体腎移植、生体肝移植など移植医療の麻酔を経験できる。

● 千葉大学医学部附属病院

研修プログラム統括責任者:田口 奈津子

専門研修指導医:

田口 奈津子(学会指導医, 機構専門医, 麻酔, 緩和ケア, ペインクリニック)

鐘野 弘洋(学会指導医, 麻酔, 緩和ケア, ペインクリニック)

孫 慶淑(学会指導医, 麻酔, 心臓麻酔)

奥山 めぐみ(学会指導医, 麻酔, 心臓麻酔)

石橋 克彦(学会指導医, 機構専門医, 麻酔)

林田 泰一郎(学会指導医, 機構専門医, 麻酔)

専門医:

山岸 頌子(学会専門医, 麻酔)

山田 高之(学会専門医, 麻酔)

高井 啓有(学会専門医, 麻酔)

泰地 沙季(学会専門医, 麻酔)

山地 芳弘(学会専門医, 麻酔)

中尾 史織(学会専門医, 麻酔)

川上 定俊(学会専門医, 麻酔)

鈴木 明加(学会専門医, 麻酔)

古宇田 絢子(学会専門医, 麻酔)

神山 瑞恵(学会専門医, 麻酔)

渡邊 毅士(学会専門医, 麻酔)

竹生 浩人(機構専門医, 麻酔)

鈴木 隆和(機構専門医, 麻酔)

中島 祐人(機構専門医, 麻酔)

橋田 真由美(機構専門医, 麻酔)

宮田 結奈(機構専門医, 麻酔)

認定病院番号:37

特徴: 大学病院として一般病院では経験できない最先端手術, 侵襲の大きな手術や重篤な合併症を持つ患者さんの麻酔管理がほとんどで, 臨床医としての実力をつけるには十分な症例が経験できる. 心臓麻酔や小児麻酔, 産科麻酔などの特殊麻酔も専門施設以上の研修が可能である. HCUでの術後患者の全身管理, 疼痛管理を通して, より効果的な術前・術中・術後管理の研修を学ぶことができる. さらに, 当教室の緩和ケア病棟で全人的に患者と向き合い, 症状治療の重要性を学ぶこともできる. また, 大学院生として臨床研究を行いながら麻酔科研修ができるのも大きな特徴である. 研修期間中に手術麻酔, ペインクリニック, 緩和医療の十分な臨床経験を積む. 通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え, 下記の特殊麻酔の担当医として本プログラム割り当て件数内で可能な限り経験する.

● 東京女子医科大学病院

研修プログラム統括責任者: 長坂 安子

専門研修指導医:

長坂 安子(麻酔)

野村 実 (麻酔)

尾崎 恭子(麻酔)

鈴木 康之(麻酔)

黒川 智 (麻酔)

笹川 智貴(麻酔、ペインクリニック)

岩出 宗代(麻酔、ペインクリニック)

横川 すみれ(麻酔)

濱田 啓子(麻酔)

庄司 詩保子(麻酔)

土井 健司(麻酔)

石川 高 (麻酔)

福島 里沙(麻酔)

長谷川 晴子(麻酔)

衛藤 由佳(麻酔)

山本 偉(麻酔)

認定病院番号: 32

特徴:

豊富な症例数を背景として包括的な麻酔研修, 集中治療・ペインクリニック・緩和の研修も可能です. 心臓麻酔研修は特に力を入れており, 心臓麻酔専門医の取得も可能です. 多種の臓器

移植(心臓・肝臓・腎臓)や合併症(先天性心疾患等)妊娠の管理,エコーガイド下ブロック麻酔
研修など様々なスペシャリティに対応します.

● 立川総合病院

研修プログラム統括責任者:桑原 淳

専門研修指導医:

桑原 淳(麻酔,心臓血管麻酔,神経ブロック)

佐藤 敬太(麻酔,心臓血管麻酔,集中治療)

市川 拓(麻酔,心臓血管麻酔,神経ブロック)

栗田 菜月(麻酔,心臓血管麻酔,神経ブロック)

認定病院番号:1469

特徴:

新潟県内で中心的な役割を果たす手術施設. 特に県内随一の心臓血管手術症例数を誇り,
高度な心臓血管麻酔の修練が可能.

● 東京警察病院

研修プログラム統括責任者:石崎卓

専門研修指導医:

研修指導医:

石崎 卓(麻酔)

小安永 佳乃(麻酔)

赤坂 徳子(麻酔)

嵐 朝子(麻酔)

高田 純子(麻酔)

野本 万祐子(麻酔)

濱田 隆太(麻酔)

認定病院番号:338

特徴:東京都中野区における急性期災害拠点病院である. 産科麻酔,呼吸器外科麻酔,脳
神経外科麻酔を含めた総合的な麻酔研修を行う.

● 戸田中央総合病院

研修プログラム統括責任者:須田 千尋

専門研修指導医:

須田 千尋(麻酔)

畑山 聖(麻酔、集中治療)

宮崎 裕也(麻酔、集中治療)

認定病院番号:587

特徴:

埼玉県南部地域における急性期中核病院である。小児麻酔, 心臓外科麻酔, 呼吸器外科麻酔, 脳神経外科麻酔, 移植外科麻酔を含めた総合的な麻酔研修を行うとともに, 重症患者に対する集中治療, 及び, 地域における救急医療の研修を行う。

● 三井記念病院

研修プログラム統括責任者:横塚 基

専門研修指導医:

横塚 基 (麻酔, 心臓麻酔)

大野 長良 (麻酔, 心臓麻酔)

竹内 純平 (麻酔, 心臓麻酔)

大槻 達道 (麻酔, 心臓麻酔)

佐藤 瑞穂 (麻酔, 蘇生)

今井 恵理哉(麻酔, 集中治療)

田中 真佑美(麻酔)

山本 麻里 (麻酔)

小平 亜美 (麻酔)

滑川 元希 (麻酔)

西脇 智哉 (麻酔)

仲西 里奈子(麻酔)

本田 香織 (麻酔)

認定病院番号:68

特徴:

心臓麻酔・透析患者・重症患者を中心に幅広い症例を経験できる。

③ 専門研修連携施設B

● 熊本大学病院

研修プログラム統括責任者:平田 直之

専門研修指導医:

平田 直之(麻酔、集中治療)
杉田 道子(麻酔)
生田 義浩(麻酔)
小松 修治(麻酔、ペインクリニック)
山田 寿彦(麻酔、ペインクリニック)
藤本 昌史(麻酔)
荒木 美貴(麻酔)
石村 達弘(麻酔)
徳永 祐希子(麻酔)
林田 裕美(麻酔)
柚留木 朋子(麻酔)

認定病院番号:34

特徴:

大学病院としての多くの麻酔科管理症例を経験でき、必須である小児、帝王切開、心臓外科、胸部外科、脳外科の症例数が豊富である。手術室麻酔以外にも集中治療、ペインクリニック、緩和ケアをローテーション可能である。産科麻酔講座をあるため無痛分娩の管理や、区域麻酔としてのコーガイド下テクニック、ペインクリニック領域での透視下ブロックなどの手技も学ぶことができる。

● 国立循環器病研究センター

研修プログラム統括責任者:大西 佳彦

専門研修指導医:

吉谷 健司
金澤 裕子
前田 琢磨
南 公人
月永 晶人
下川 亮
麻酔科専門医
加澤 昌広
増田 聖
森永 将裕
肥塚 幸太郎

伊藤 芳彰
細井 貞則
川喜田 靖明
奥田 千愛
岩佐 美
寺田 裕作
本庄 俊介
森田 雄斗

認定病院番号:168

特徴:

センター手術室は12室であり、そのうち4室はハイブリッド手術室である。ロボット手術専用室やCOVID対応印圧手術室も設置している。2022年度の症例数は、ほぼ前年と同程度であった。緊急大動脈解離手術は88症例、ロボット手術による小切開心臓手術も92症例であった。また、劇症型心筋炎や心筋症増悪に対する左室補助装置装着手術も47症例であり、心臓移植も12症例に施行した。麻酔科医はスタッフ8名レジデント17名で対応した。集中治療専属医は2名であった。休日を含めた毎日、麻酔科医2名が当直、集中治療室でも1名当直、オンコール2名ですべての緊急症例および集中治療室管理に対応した。2023年はICUスタッフとPICUスタッフを新たに8名加え、スタッフ麻酔科医8名、集中治療医7名、PICU医師5名、産科麻酔科医1名とレジデント16名で対応していく予定である。

● 国立成育医療研究センター

研修実施責任者:糟谷 周吾

専門研修指導医:

糟谷 周吾(小児麻酔)
大原 玲子(産科麻酔)
馬場 千晶(小児麻酔)
蜷川 純(小児麻酔)
山下 陽子(産科麻酔)
古田 真知子(小児麻酔)
松永 渉(産科麻酔)
浦中 誠(小児麻酔)
橋谷 舞(小児麻酔)
阿部 真友子(産科麻酔)
伊集院 亜梨紗(産科麻酔)
阿部 まり子(小児麻酔)

壺井 薫(小児麻酔)
永田 沙也(小児麻酔)
久米 澄子(産科麻酔)
河村 彰久(小児麻酔)

認定病院番号 87

特徴:

- ・国内最大の小児・周産期施設であり, 胎児, 新生児, 小児, 先天性疾患の成人麻酔, 産科麻酔(無痛分娩管理を含む)および周術期管理を習得できる.
- ・国内最大の小児集中治療施設を有し, 小児救急疾患・重症疾患の麻酔・集中治療管理を習得できる.
- ・小児肝臓移植, 腎移植, 小腸移植, 心臓移植の周術期管理を習得できる.
- ・小児がんセンターがあり, 小児緩和医療を経験できる.
- ・臨床研究センターによる臨床研究サポート体制があり研究環境が整っている.

● 小山記念病院

研修実施責任者:角田 健

専門研修指導医:

角田 健(臨床麻酔)
田上 恵(臨床麻酔)
近江明文(臨床麻酔)

認定病院番号:1430

特徴:

地域の中核的医療施設で, 産婦人科・整形外科・脳外科の手術症例が豊富.

● 埼玉県立小児医療センター

研修プログラム統括責任者:蔵谷 紀文

専門研修指導医:

蔵谷 紀文(麻酔・小児麻酔)
佐々木 麻美子(麻酔・小児麻酔)
濱屋 和泉(麻酔・小児麻酔)
古賀 洋安(麻酔・小児麻酔)
大橋 智(麻酔・小児麻酔)
駒崎 真矢(麻酔・小児麻酔)
石田 佐知(麻酔・小児麻酔)

河邊 千佳(麻酔・小児麻酔)

高田 美沙(麻酔・小児麻酔)

認定病院番号 399

特徴:

研修者の到達目標に応じて、小児麻酔・周術期管理の研修が可能。小児鏡視下手術や新生児手術、心血管手術のハイボリュームセンターです。小児がん拠点病院であり、総合周産期母子医療センター、小児救命救急センター、移植センター(肝移植)が併設されています。小児集中治療の研修も可能(PICU14, HCU20, NICU30, GCU48)。

● 静岡医療センター

研修プログラム統括責任者:小澤 章子

専門研修指導医:

小澤 章子(麻酔, 集中治療)

今津 康宏(麻酔, 集中治療)

認定病院番号:866

特徴:

地域医療支援病院として循環器疾患を中心に急性期治療を行っている。集中治療のローテーション可能。

● 自治医科大学附属病院

自治医科大学医学部附属病院

研修プログラム統括責任者 竹内 護

専門研修指導医:

竹内 護(小児麻酔, 心臓麻酔)

讃井 将満(集中治療)

鈴木 昭広(周術期管理, モニタリング, 超音波検査)

五十嵐 孝(ペインクリニック, 産科麻酔)

多賀 直行(小児麻酔, 小児集中治療)

佐藤 正章(蘇生学, 医学教育)

堀田 訓久(ペインクリニック, 区域麻酔)

末盛 智彦(小児集中治療, 心臓麻酔)

永野 達也(小児麻酔, 小児集中治療)

島田 宣弘(ペインクリニック, 緩和ケア)

永川 敦士(心臓麻酔)

篠原 貴子(小児麻酔, ペインクリニック)

方山 加奈(手術麻酔)

須藤 智幸(手術麻酔)

佐多 奈歩(集中治療)

専門医:

菊地 紘彰(手術麻酔),山本令子(手術麻酔),

原 鉄人(手術麻酔, 集中治療), 藤田裕壮(手術麻酔),

山田 衣璃(手術麻酔), 山田希生(手術麻酔),

中田 翔(手術麻酔), 小川薫(手術麻酔),

田中 諒子(手術麻酔),中村美織(手術麻酔),

山田 高嗣(手術麻酔)

認定病院番号:105

特徴:

当院は全国初の大学病院併設型の子ども医療センターを有し, 周産期母子センター, 救急救命センター, がん拠点病院といった多数の機能を有している. そのため経験できる症例は実に幅広く, 夜間帯に小児手術と, 多発外傷, 緊急帝王切開等を並行して行うようなことも決して珍しくない. 当院で研修を行い同期と症例を共有することで体得される知識と技術は, 教科書や文献では決して得られない貴重なものになるだろう.

● 順天堂大学医学部附属順天堂医院

研修実施責任者:川越 いづみ

専門研修指導医:

川越 いづみ(呼吸器外科麻酔・区域麻酔)

林田 眞和(心臓血管外科麻酔)

西村 欣也(小児麻酔)

井関 雅子(ペインクリニック、緩和ケア)

角倉 弘行(産科麻酔)

石川 晴士(胸部外科麻酔・術前外来)

三高 千恵子(集中治療)

長島 道生(集中治療)

竹内 和世(麻酔全般・小児麻酔)

原 厚子(脳神経外科麻酔)

工藤 治(麻酔全般)

岩田 志保子(麻酔全般・心臓血管外科麻酔)

掛水 真帆(麻酔全般・心臓血管外科麻酔)

菅澤 佑介(麻酔全般)
尾堂 公彦(麻酔全般・心臓血管外科麻酔)
河内 山宰(麻酔全般)
福田 征孝(麻酔全般)
安藤 望(麻酔全般)
井上 理恵(産科麻酔)
岡原 祥子(産科麻酔)
須賀 芳文(産科麻酔)
門倉 ゆみ子(産科麻酔)
越後 結香(産科麻酔)
千葉 聡子(ペインクリニック)
山田 恵子(ペインクリニック)
河合 愛子(ペインクリニック)
池宮 博子(ペインクリニック)
金子 瑞恵(ペインクリニック)

専門医:

林 愛(麻酔全般)
櫻谷 初奈(麻酔全般)
山口 愛(麻酔全般)
草野 有佳里(麻酔全般)
藤野 隆史(麻酔全般)
塚田 里奈(麻酔全般)
桃井 千恵(麻酔全般)
伊東 由圭(麻酔全般)
後藤 良太(麻酔全般)
宇田川 梨子(麻酔全般)
岸井 絢(麻酔全般)
金子 綾香(麻酔全般)
結束 さやか(麻酔全般)
玉城 博章(産科麻酔)
濱岡 早枝子(ペインクリニック)
西田 茉那(ペインクリニック)

認定病院番号 12

特徴:

各診療科の手術数が多く最先端医療の導入にも積極的であるため、豊富な麻酔症例を経験でき、各サブスペシャリティの指導陣も充実している。ペインクリニック、緩和ケア、集中治療、産科麻酔の長期・短期のローテーションも可能である。多職種で構成される包括的な術前外来も整備され、麻酔安全面へ大きく寄与している。

● 西東京中央総合病院

研修実施責任者:西山 隆久

専門研修指導医:

西山 隆久(麻酔)

認定病院番号 1535

特徴:

整形外科領域の周術期神経ブロック症例が豊富。

● 松波総合病院

研修実施責任者:松波 紀行

専門研修指導医:

松波 紀行(麻酔, ペインクリニック, 緩和医療)

江崎 善保(麻酔, 心臓血管麻酔, ペインクリニック)

橋本 慎介(麻酔, 心臓血管麻酔)

小島 明子(麻酔, 集中治療)

田中 亜季(麻酔, 集中治療)

三上 大介(麻酔)

専門医:

辻 菜々子(麻酔)

加藤 真奈美(麻酔, 心臓血管麻酔)

石川 恭(麻酔)

認定病院番号 480

特徴:

地域医療支援病院. 集中治療, ペインクリニックのローテーション可能. 緩和ケアチームに参加可能.

● 山形大学医学部附属病院

専門研修責任者:岡田 真行

専門研修指導医:

岡田 真行
飯澤 和恵
成澤 あゆ香
黒田 美聡
松浦 優
八島 望
森谷 真知佳
小野寺 悠
鈴木 麻奈美
鎌水 健也

認定病院番号133

特徴:

集中治療, ペインクリニックのローテーションが可能です。集中治療専門医研修施設, 心臓血管麻酔専門医認定施設です。

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は, 日本専門医機構に定められた方法により, 期限までに志望の研修プログラムに応募する。

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは, 東京医科大学麻酔科専門研修プログラムwebsite, 電話, e-mail, 郵送のいずれの方法でも可能である。

東京医科大学病院 麻酔科秘書 岩瀬寛子 プログラム担当 柿沼孝泰

東京都新宿区西新宿6-7-1

TEL 03-3342-6111 (内5811)

E-mail hshimada@tokyo-med.ac.jp

kakitaka@tokyo-med.ac.jp

Website <https://team.tokyo-med.ac.jp/masui/index.html>

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果(アウトカム)

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は, 4年間の専門研修を修了することで, 安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し, 国民の健康と福祉の増進に寄与する

ことができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のスキルアップを図ることが出来る。

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた経験すべき疾患・病態、経験すべき診療・検査、経験すべき麻酔症例、学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

7. 専門研修方法

別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた1)臨床現場での学習、2)臨床現場を離れた学習、3)自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修 1 年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA1～2度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導のもと、安全に周術期管理を行うことができる。

専門研修2年目

1年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪いASA3度の患者の周術期管理やASA1～2度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができる。

専門研修3年目

心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などを経験し、さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと、安全に行うことができる。また、ペインクリニック、集中治療、救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識・技能を修得する。

専門研修4年目

3年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる。

9. 専門研修の評価(自己評価と他者評価)

① 形成的評価

- 研修実績記録:専攻医は毎研修年次末に、**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック:研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、**研修実績および到達度評価表**、**指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修4年次の最終月に、**専攻医研修実績フォーマット**、**研修実績および到達度評価表**、**指導記録フォーマット**をもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうか修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われる。

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

12. 専門研修の休止・中断、研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して2年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して2年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構

の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

13. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、地域医療の中核病院としての、東京医科大学茨城医療センター(茨城県)、埼玉県立小児医療センター(埼玉県)、松波総合病院(岐阜県)、戸田中央総合病院(埼玉県)、千葉大学医学部附属病院(千葉県)、山形大学医学部附属病院(山形県)、立川総合病院(新潟県)など、幅広い連携施設が入っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

14. 専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなる。専攻医の就業環境に関して、各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とする。プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境(設備、労働時間、当直回数、勤務条件、給与なども含む)の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮する。

年次評価を行う際、専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価(Evaluation)も行い、その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導する。